



◇巻頭言◇

「夕陽会」の心「絆」を大事に



参与 田面木 茂樹

(昭和48年卒 奥州市教育委員会教育長)

昨年は、日本中で今まで当たり前に行ってきたことが出来ない状況が続き、経験したことのない一年間となっていました。毎年開催される夕陽会「大懇親会」の中止をはじめ、各地区での集会も同様な状況が多いと聞いています。

私の岩手支部も同様でした。今年はこのような状況が早く終息することを願うばかりです。

私は卒業後、教職を埼玉で始め故郷の岩手で退職し十年が過ぎます。今、大学生活を思い出してみると日本中で学生運動が盛んな時代で、函館分校もその渦中で、国の政策や大学立法等に対して真剣に考え、研究室で仲間と議論したことが浮かんできます。その仲間とは卒業後、毎年同窓会を開催し交流を深めてきました。しかし、近年は高齢とコロナの影響もあり開催が少なくなってきた寂しさを感じるようになってきました。

歴史と伝統ある夕陽会との関わりは、岩手の教職に就いてからで当時の岩手支部を設立した故及川悌三郎先生の一言、「夕陽会同窓は強い絆が大事」の心意気に賛同し仲間との「絆」を大事に継続しています。

その「絆」を強く感じたのは、あの大地震をもたらし「東日本大震

災」の時でした。夕陽会本部が全国に呼びかけ、「仲間を助けよう」と義援金を集め、岩手を始めとする被災地へ届けて頂いたことでした。岩手の同窓生は本当に感謝しています。だからこそ「夕陽会」は強い絆で結ばれている」と感じた時でした。

現在、大学の教職課程も大きく変わり、教職に就く学生が少なく民間への就職が多くなったと聞きます。そのために連絡が取れず「夕陽会」同窓会の開催も困難になってきている現状は、どの支部でも同様な悩みであります。是非、卒業後は、連絡を取り合い伝統ある「夕陽会」を継続し盛り上げて頂きたい。どんな職場に就いても、大学で一緒に学んだ仲間、同窓生として「絆」を大事にし「夕陽会」の発展に寄与してくれることを望みます。

現在も教職を目指す学生がいることを大変心強く思っています。ぜひ、皆さんには、新しい学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」の視点による教育を実践し、将来の函館、北海道そして日本をリードする人材を育ててくれることを期待しています。

最後に、遠く本州より「夕陽会」の益々の発展を願っております。

栄誉に輝く同窓



○北海道教育功績者表彰

同窓の皆様へ感謝して

函館市 佐竹 聡

(昭和58年卒 函館市立巴中学校長)

この度、図らずも、令和二年度北海道教育功績者の栄に浴することとなりました。私のような浅学非才のものにとりましては身に余る光栄であるとともに、大変恐縮しております。また、函館市教育委員会をはじめ、多くの素晴らしい先輩や同僚・後輩に恵まれたお陰であるところから感謝申し上げます。

今回の受賞に際しましては、夕陽会会長藤川隆様をはじめ、同窓の皆様方から心温まるお祝いや励ましの言葉をいただき、同窓の絆を深く感じ、万感胸に迫る思いでありました。

昨年十二月十七日ホテルライフォート札幌で行われた授賞式に参加して参りました。厳肅な雰囲気の中で北海道教育委員会教育長小玉俊宏様より表彰状と記念品をいただきました。

もとより、この様な重い賞を私人がいただけるはずありません。

これまで一緒に力を合わせて教育に携わってきた多くの仲間と一緒にいただいたものと思っております。特に学級指導や生徒指導、そして部活動指導を共にしてきた教職員の方々、同窓会並びに函館市中学校長会の仲間達への評価であり、励ましであると捉えております。

山 学校現場は、昨年来のコロナ禍により、取り組むべき課題は複雑で多岐にわたっております。今まで以上に教職の仲間そして地域・保護者との絆を基として能動的に関わっていくことが大切と感じています。

これからも、この受賞に恥じないよう努力して参りたいと思っております。

結びになりますが、夕陽会のますますの発展と会員の皆様のご活躍とご多幸を祈念し、感謝とお礼のご挨拶といたします。

受賞(章)おめでとうございます

*函館市文化団体協議会・

白鳳章(1甲/1)

鈴木大有(孝徳)氏 昭55年卒

市立函館高等学校教諭

*瑞宝双光章(高齢者叙勲12/1)

川村 孜 氏 昭28年Ⅱ卒

函館市深堀町一八の二

*瑞宝双光章(高齢者叙勲11/1)

小林 信夫 氏 昭31年Ⅰ卒

函館市松川町四二の一五

*瑞宝双光章(高齢者叙勲11/1)

今野 久男 氏 昭30年Ⅰ卒

函館市中道一の二八の一

*瑞宝双光章(高齢者叙勲11/1)

佐郷谷幸男 氏 昭28年Ⅱ卒

函館市人見町二一の六の二〇六

*瑞宝双光章(秋の叙勲11/3)

片山 忍 氏 昭30年Ⅱ卒

新ひだか町静内緑町七の一の四七

*瑞宝双光章(秋の叙勲11/3)

中村 正之 氏 昭32年Ⅱ卒

函館市陣川一の一五の一四

*瑞宝双光章(秋の叙勲11/3)

別府 亮次 氏 昭42年卒

札幌市手稲区稲穂三の六の一の二五の四〇八

*瑞宝双光章(高齢者叙勲12/1)

島田 誠 氏 昭31年Ⅰ卒

函館市深堀町一三の三三

*瑞宝双光章(高齢者叙勲1/1)

飯坂 朋範 氏 昭30年Ⅰ卒

函館市中道一の八の一

*瑞宝双光章(高齢者叙勲1/1)

片桐 利朗 氏 昭30年Ⅰ卒

函館市栄町六の一〇

*瑞宝双光章(高齢者叙勲1/1)

村山 康夫 氏 昭29年Ⅱ卒

函館市松陰町二六の二四

*瑞宝双光章(高齢者叙勲1/1)

柳田 幸男 氏 昭30年Ⅰ卒

函館市柏木町三五の六

ご就任おめでとうございます

*参議院内閣委員会委員長

森屋 宏 氏 昭55年卒



石狩支部だより

石狩支部長 岩倉 隆

(昭和59年卒 江別市立豊幌小学校長)

石狩管内は、千歳市、恵庭市、北広島市、江別市、新篠津村、当別町、石狩市の七市町村から成り、同窓は約百二十名です。

どこの支部も同じでしょうが、新型コロナウイルス感染症の流行により、石狩支部も活動が滞り、活動の中止や見直しを余儀なくされました。

令和元年度は、二月の臨時休業以来、一同揃っての役員会を行うことができず、メールにて文書による議事の確認、承認を行いました。送別会もできず、児童生徒の教育や学校経営にご尽力された諸先輩の退職を祝うことができませんでした。

令和二年度に入っても同様です。五月に本部よりご来賓をお迎えしての総会・歓迎懇親会も残念ながら中止となりました。

支部長としての最初の仕事で、道央ブロック会議の中止の相談でした。道央ブロック会議は、本部からご来賓をお迎えし、後志支部、札幌支部、小樽支部、空知支部、石狩支部が毎年持ち回りで、各支部の現状や課題の交流と懇親会を行っています。今年度は石狩支部が幹事を務め、十月に予定していました。ホテルを予約している関係上、実施判断を早急に行わなくてはならず、各支部長

に連絡を取り、事情を説明し、やむなく中止とさせていただきます。

五つの支部が一堂に集まり交流を持っているのは、他に類を見ない特色ある取組ではないでしょうか。実施できず、とても残念です。

今年度は残念ながらできませんでしたが、支部の取組を紹介します。一つは平成二十一年度より行われている「ふれあいトーク」です。若い会員を中心に研修や懇親会を行っています。今までに国際理解教育、特別支援教育の研修や日頃の実践交流などを行ってきました。もう一つは各市町村単位での懇親会です。居酒屋などで普段着での交流です。参加者には支部が少しだけ補助を出しています。

できなかったことの紹介となってしまうましたが、コロナ禍にあっても、広報誌「夕陽石狩」の発行、学習会の実施など、今できることを精一杯取り組んできました。

最後に、石狩支部がこれから取り組む大きな課題を二つ。

年々減少する会員数を少しでも増やすために、教員以外の会員の掘り起こしと組織化、現役世代を応援するOB会の設立に取り組むことです。今後の夕陽会のためにがんばります。



宗谷支部だより

宗谷支部長 佐藤 佳弘

(昭和61年卒 利尻富士町立鴛泊中学校長)

学校現場における新型コロナウイルスの影響が甚大であった令和二年度。感染症予防対策としてほとんどの行事や会議を延期または中止せざるを得ませんでした。そのような中、北海道が第三波に見舞われた十一月には宗谷管内の地域や学校でも感染者が確認され、現在は一切の会食を伴う会合は自粛しています。そのため毎年十二月の夕陽会宗谷支部総会・懇親会を今年度は見送りました。

宗谷支部は毎年平均三十数名の在籍がありますがメンバーの特徴は退職者が内八名であり、現役と退職者の交流が年一回ではあります。比較的事あることだと思えます。例年総会・懇親会には退職された方々にたくさん参加していただいています。しかしながら、諸先輩は皆コロナで重症化しやすい高齢者であり、今後は、当面開催が難しい状況にもなっています。このコロナ禍が一日でも早く終息し、再び夕陽会同窓生の皆さんと楽しく懇親ができることを願っています。

さて、おそらく皆さんにはあまりなじみがないであろう宗谷管内のご紹介をさせていただきます。宗谷管内には、稚内市・豊富町・枝幸町・浜頓別町・中頓別町・幌延町・猿払村・利尻富士町・利尻町・礼文町の一市九町村があり、京都府とほぼ同

じ面積で約六万二千人の人口となっています。日本のでっぺん宗谷岬からは遙かサハリンを望み、日本海とオホーツク海に囲まれウニや昆布、毛がになど新鮮で豊富な海産物に恵まれています。また、宗谷牛や豊富牛乳などの畜産商品、利尻礼文サロベツ国立公園、数々の名湯といった観光資源もたくさんありますので、このコロナ禍が終息した折にはぜひ一度お越しください。

また、宗谷と函館のつながりも濃く、かつて函館・小樽・稚内航路があったため函館大卒の教師がたくさんいて、私が新卒の頃(昭和六十一年)には多くの管理職が先輩であつたように記憶しています。昨年全国支部長会議で久しぶりに函館に行きましたが、駅前の変貌ぶりには驚きました。一方私が学生だった三十五年前にもあったお店も記憶の通りに存在し、古今が混在する函館は本当に不思議な街だと感じます。私が青春時代を過ごした函館は宗谷からは一番遠い街ですが、これからも機会があれば訪れてみたいと思っています。

最後に、我々が母校・夕陽会から、この予測困難な時代の中であっても、優秀で志が高い教師が輩出され、全道・全国そして世界の各地で活躍されることを心から期待しています。

各界で活躍する夕陽会員



異例の一年を経て

(平成30年卒 函館市立日新中学校教諭) 田畑 弦

私は平成三十年に北海道教育大学函館校を卒業し、期限付き任用で一年間働き、平成三十一年度(令和元年度)より、現在の函館市立日新中学校に赴任いたしました。

日新中学校は令和二年度をもってその歴史に幕を閉じ、令和三年度より義務教育学校である函館市立戸井学園へと統合されます。豊かな自然の恵まれ、地域と共に歩んできたこの学校が閉校してしまうのは、とても名残惜しく思います。

この一年間は、新型コロナウイルスにより経験したことのない年になりました。初めて担任(複式学級)となった四月、期待を胸に迎えました。が、わずか二週間で再び臨時休業になり、異例の一年のスタートとなりました。

今年度は、行事の中止や縮小、制限された中での実施等、私たち教員にとっても生徒や保護者にとっても初めてのことで、例年通り行事や授業ができないことに不安を拭きませんでした。その中でも、感染対策をしつかりと講じ、できる限りの教育活動を展開してきたつもりです。普段通りできずとも、行事や日々の授業を通して、生徒の笑顔や成長を間近で見ることができ、本当に嬉しく思います。

また、自分にとっても大きく成長することのできた一年だと思っています。それは、初めての道德の研究

授業をさせていたことでした。始めはどのように準備をしたり、授業を構成したりしていけばよいかわかりませんでした。が、学年団の先生や教務の先生方のアドバイスや指導案検討をしていただきました。準備に準備を重ね、迎えた当日。緊迫した空気の中で授業が始まり、気付くと終了のチャイムが鳴っていました。事後研修では、研究協議と共同研究者からのコメントをいただき、大変勉強になりました。

そして、戸井学園に向けて、平成三十年から始まった統合準備委員会各部会に分かれ、三年間かけて様々な準備を進めてきました。今年度からは、日新中学校と隣の潮光中学校が、生徒数減少に伴って複式学級になったことから、教員数も前年度の半分となっていました。その中で、通常の業務に加え、統合準備を進めることは決して楽ではありませんでしたが、閉校と新しい学校の開校に携わることができたのはとても貴重な経験だと思いました。

まだまだ、未熟な部分は多くありますが、一歩ずつ一歩ずつ確実に、教師としての指導力や授業力を向上させたいと思います。最後に、夕陽会の諸先輩方へ、様々な場面でご指導下さり感謝申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



教員生活二年目を振り返って

(平成31年卒 森似町立様似小学校教諭) 森脇 秀岳

私は、平成三十一年に北海道教育大学函館校を卒業し、一昨年の四月より様似町立様似小学校にて勤務しています。四年間を過ごした函館を離れることに對する寂しい気持ちもありましたが、山や海といった豊かな自然に恵まれた様似町で教員生活を送ることができていることに喜びを感じています。

この二年間の教員生活では、本当に多くのことを経験することができました。一年目となる昨年度は、何もかもが初めてのことばかりの中で、他の先生方にアドバイスをもらいながら、一年を過ごすことができました。

二年目となる今年度は、新型コロナウイルス感染症による臨時休校の影響で、例年通りに行うことができない行事もありましたが、その中でできることを考えながら工夫し、活動することができました。学校が再開してからは、学習の遅れを取り戻しつつ、主体的・対話的で深い学びを実現することに難しさを感じながら日々授業をしていました。また、九月には算数科で公開授業をさせて

いただきました。教材研究をするにあたって、指導と評価を一体化させているか、前時の学習と本時の学習をうまく結びつけているか、課題とまとめが結びついているか、児童に見通しを持って活動に取り組ませることができているかなどを意識して授業づくりをすることができました。

他の先生方にも観てもらいながら実際に授業をして、新たな課題を見つけ、日々の授業にもつなげることができ、とても貴重な経験になりました。

来年度は、この二年間の経験を生かし、児童が「できる」「分かる」を実感できる授業を目指すとともに、主体的・対話的で深い学びを目指して授業実践・授業改善をしていきたいと思っています。

最後になりますが、これからも他の先生方にアドバイスをもらいながら自己研鑽を積み、授業力を向上させていきたいと思っています。夕陽会の皆様には、今後ともお世話になることと思いますが、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。



先生にならなくてホントに良かったのか？

武田 好貴

(平成10年卒 株式会社エスイーシー 公共ソリューション事業部 営業部次長)

私は平成十年に北海道教育大学函館校を卒業しました。私の記憶が間違っていないければ当時はまだ学生の半数以上が教員養成課程に在籍しており、私ももちろん教員を目指して入学しました。当時はむしろ教員になること以外の選択肢を考えたことすらありませんでした。

秋田県の小さな村で生まれ育った私の近所には教員をされている方が多く、また通った小学校、中学校で素晴らしい先生方に出会い、誰からも勧められたわけでもなく、いつからか「先生になりたい」と思うようになつていました。また「金八先生」「教師びんびん物語」等のテレビドラマ等々にも感化され、その想いを強くしていきました。

そんな想いで大学生生活を過ごしていた私ですが、教育実習に行ったりから、その想いが揺らぐようになり、卒業が迫り、これまでは言わば憧れだけで目指してきた教員が、いざ「就職先(職業)」としての教員」として見えてくると、教育の多様化、いじめ・モンスターペアレント等の社会問題、それらに対応していくのかという自分自身の資質への疑問等、不安要素がどんどんと出てきて、「このまま教員を目指して大丈夫なのか？」と考えるようになり、結局悩んだ末、一度は大学を辞めることまで考えましたが、大学には休学という制度があることを知り、半年間の休学期間をもらって、改めて教員を目指すことについて考え直すことにしました。半年間の休学中、家庭教師やガソリンスタンドのスタッフ、アルバイトをする中で、様々な

経験をし、多様な職種の人々との出会いがあり、最終的に私が出した結論は「このモチベーションのまま教員を目指してもきっと後悔する」との思いに至り、まずは教員以外の職業に就くことを選択しました。

就職先を模索する中、一般家庭にもパソコンが普及し始める等の時代変化があり、ここでもまた人との出会い等に扱われ就職したのが、ITを主に扱って今就職したのが、社から一貫して営業職に就いており、函館市を始めたとする近隣自治体の行政システムの販売やメンテナンスなどを行っていました。正直なところ、やつぱり教員になりたいという気持ちも復活するかもしれないという思いもあつて、まずはちよつと違うことをやってみよう程度の気持ちで入社したのですが、あれよあれよと入社から二十余年が経過し、このまま骨を埋める勢いです。「本当に教員を目指さなくて良かったのかな？」と思うこともありますが、就職に就いた友人たちの苦労話を聞いては、「うん。これで良かったんだ。」と自分を納得させております。

久しく北海道教育大学とは関わりが薄くなっておりましたが、縁あって令和元年度の夕陽会会社員・公務員部会に参加させて頂き、この申し上げまで頂戴しましたこと感謝申し上げます。今後は積極的に関与し、「なるべく」夕陽会のイベントにも参加していきたいと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願い致します！

最後に、コロナ禍により皆様それぞれに様々な困難があるかと思いますが、皆様のご健勝とありますご活躍を心からお祈り申し上げます。



人と繋がる

東堂 祥平

(平成23年卒 乙部町役場 産業課 農務係)

私は、大学卒業後、地元企業であるネットトヨタ函館(株)に入社しました。三年半の自動車販売の営業職を経て、多くのことを学ばせて頂いた後、平成二十六年に転職し檜山の乙部町役場に入職させて頂きました。営業職から公務員へ。役所等の公務員へどのようなイメージを抱きますか？大半の人は堅苦しいイメージを抱くかと思いますが。転職するに当たり、私はそんなイメージを少しでも払拭したいという思いがありました。

乙部町へ移り住んだ頃、知人はゼロ人からのスタート、人脈を広げるためには、自分から開拓するしかありませんでした。営業職だったことを生かし、色々な所へ顔を出し、名前と顔を覚えてもらえるよう意識しました。もちろん、町民の方の顔と名前も覚えなければなりません。移り住んで七年が経ち、今ではすっかり乙部人となり、函館に住んでいたころよりも人脈は広がりました。乙部町は人情味溢れる人が多く、支え合って暮らしていることに助けられた結果でもあります。

営業の世界で売るモノは自分自身であり、根底にあるのは信頼と安心だと思えます。人口の少ない町だからこそ重要なものは、人との繋がりと地域との繋がりであり、その中に生み出す信頼は必要不可欠です。「サービス業」から「行政サービス業」へ変わってもその根底にあるモノ、提供するモノは変わりません。役場に訪れる町民の方々は、各種申請手続き・相談等で来庁していますが、庁舎に入りにくかったり、何かしら不安を抱えていたり、緊張している方は多いかと思えます。その不安や緊張を少しでも取り除くことができる「役」に立つ「場所」でなければなりません。

昨今のコロナ禍により、世界規模で大変な時代となつてしまい、人との接触や外出に気を遣わなければならなくなりました。今まで当たり前だったことが当たり前ではなくなり、新しい当たり前ができてきています。夕陽会のキャッチフレーズである『創造と行動』に力を注ぎ、コロナ禍でも人との繋がりが希薄にならないように役場の人間として、町民の方々が安心して暮らしていけるよう、邁進していく所存です。

今後も夕陽会の諸先輩方にはお世話になると思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

そうだ、連絡してみよう！ 同期の輪を広げて

平成十九年卒

発問思考が人生を変える！

野島 崇範

(教育学部教員養成課程卒業)

「発問の仕方がダメだ！授業づくりにおいて発問が命なんだ！」
私の中で忘れられない、教育実習中に頂いた言葉です。当時、この言葉が重くのしかかり、夜中まで授業づくりをして、上手くできない発問づくりに苛立ち、悩みました。しかし、教育実習でたった一度だけ、私が投げかけた発問によって生徒の目が輝きを増した光景が、今でも脳裏に焼き付いています。

そして、大学を卒業してから、その言葉をとても大切にしながら、気付けば十四年の歳月が経ちました。この発問思考こそが今の私を形成していると言つても過言ではありません。

私は二〇〇七年度の卒業時、英語と数学と養護教諭など複数の教員免許を取得しました。しかし、私が中学生の時から夢見ていた教師にはならず、東京の企業に入社しました。

そこで約二年半の経験を積み、当時その会社の役員だった十一歳年上の方(現在の社長)に誘われて、二〇〇九年に創業メンバーとして参画することとなりました。しかし、私の自信満々は瞬時に打ち砕かれます。それは、二〇〇八年九月十五日に世界的な金融危機リーマン・ショックが日本経済に大きなダメージを与えていたからです。売上がゼロ。そんな日々がしばらく続きました。しかし、苦しい状況の中でも発問思考を忘れず、懸命に走り続けました。そして、気付けば、二〇二一年となりました。

現在、企業の経営幹部育成のための研修事業を中心に事業展開しております。ここ最近ではドコモショップを三五〇店舗以上運営する上場企業など様々な取引先が増えて、売上を向上させるための広告宣伝というテーマで研修を行っている。私が生み出した広告宣伝の数値化を、青山学院Hiconの玉木教授という方のもと共同研究。また、売り場プロモーション診断士検定という資格試験を立ち上げて、書籍を出版。さらに、事業拡大を狙い取り組んでいます。結局、ひとに物事の本質を伝える教育というものが好きなのだと思えて感じております。

まだ想い描くイメージには全く到達できていませんが、ここまでやってこれたのは、ひとえに自分自身へ発問を何度も投げかけたからだと思っております。

私の十四年という短い社会人の人生を振り返ると、発問には思考を揺さぶり、思考を深める力があるのではないのでしょうか。そして、発問は生徒の思考育成に使われるだけではなく、自分自身の思考をも育む力があると私は信じています。

きつとこれからの世の中、新型コロナウイルス以上に想像を絶する体験をするはず。その際も、私は人生が上手くいかない理由を外的要因にせず、発問思考で自分自身に求めて、ポジティブな思考を繰り返し、明るい未来を創造するために学び、挑戦を続けたい。

仕事を選ぶということ

桃野 貴充

(教育学部情報社会教育課程・社会文化情報コース卒業)

「職業」を選ぶのではない。仕事「を選ぶ」。就職活動中の私は、津田のこの言葉に救われた。

心機二転

株式会社日本旅行北海道函館支店

山崎 拓郎

(教育学部情報社会教育課程・社会文化情報コース卒業)

大学を卒業し早いもので十四年という月日が経過しました。仕事では経理業務や営業、添乗業務を行い、教わる側から少しずつ教えることが増えてきました。プライベートでは大学の同期と結婚し、男の子二人の父となり賑やかな日々を過ごしております。

旅行会社勤めの私にとって昨年はこれほど変化が大きく、多くの事を学んだ年はありませんでした。新型コロナウイルス感染症によって人のふれあいや食事、移動など旅行の楽しみが根本に大きな制限がある状況が今も続いています。このような状況でもホテルや各交通機関と連携し、考えうる感染症対策を行うことで、修学旅行や団体・個人旅行などを実施出来ました。そこには、各感染症対策マニュアルや具体例を参考にしたり、時には旅行先の管轄保健所へ問い合わせ、対応を教えて頂いたりしたこともありました。他にもGo Toトラベル事業に代表される観光支援施策の条件や法令等も学ばなければなりません。一方で、考えれば考えれば「そこ」までして旅行する必要があるか？と疑問に思った時期がありました。しかし、昨年八月にコロナ禍で初めての修学旅行の添乗業務で、子ども達の笑顔や驚きの表情、ホテルスタッフや現地ガイドさんの嬉しそうな様子を見て、その疑問は一気に無くなりました。やはり、直接見て聞いて触れる学び、経験に勝るものはないと、心を豊かにする機会として旅行は必要なのだと改めて強く感じ一年となりました。

そんな今、大学生のころを振り返ると、改めて様々な学びの機会に恵まれていたように感じます。講義室

での授業はもちろんの事、函館市湯の川温泉街の歴史調査、卒業研究。夏休み期間に市内近郊の小学生と一緒にに行った西部地区でのフイールドワーク、サークル活動では児童館での人形劇公演など。現在の仕事をする上でも大いに役立つ経験が生まれました。教育大学で学んだことを生かし自分なりに学ぶことの大切さを次代に伝えていけるようこれからも学び続けていきたいと思います。

大教函るきる活に私

林 千尋（旧姓 富樫）

（教育学部国際理解教育課程卒業）
私は二〇〇七年に国際理解教育課程を卒業しました。それから、就職、結婚、出産と、次々に人生のターニングポイントを迎え、あつという間に十四年の日々が過ぎて行きました。

生まれも育ちも函館で、現在も函館で生活している私ですが、大学では様々な地域出身の人達との出会いがあり、沢山の経験をし、多くの影響を受けました。

高校までは、親や先生、周りの意見に流される事が多かったのですが、大学に入り、一人暮らしを始めたりアルバイトで資金を貯めて英会話教室に通ったり、短期留学に行ったりと、自分の意思で行動し、達成する喜びを感じました。他にも、卒論の調査のためにフィリピンに一週間滞在したり、教育実習で母校の高校に行ったりと、思い返すと楽しい思い出ばかりでした。

現在は、十歳、九歳の娘と五歳の息子の三児の母として子育てに専念しています。

子育てにおいては、周りより早く出産を経験したため、不安が沢山出てきました。友人が度々、訪問して元気づけてくれましたし、今ではその友人達も母となり、一緒に子育てに励んでいると思うと、とても勇気づけられています。

私は、長女が小学校に入学したの

を機に、PTA役員としての活動や昨年からは、民生児童委員として町内の活動も行っています。PTA活動では熱心な先生方や、周りのメンバーに助けられていますし、町内会の活動でも、会長さんを始め、ベテランの役員の方々が先導を切って動いてくれていて、私も頑張らないと！とモチベーションを上げてくれます。

現在は、コロナ禍で、今まで当たり前だった事が当たり前で無くなる状況にあります。新たな生活様式に対応していくには、柔軟な思考が必要だと感じています。

自分の子ども達には、自ら考え、選択・判断し、行動に移す事のできる人間に成長して欲しいと思っています。子育て等を通じて、改めて教育の大切さを実感したので、子育てがひと段落したら、自分も教育に携わる事ができたらと思います。

今回、久しぶりに大学時代を思い出し、懐かしく嬉しい気持ちになりました。この様な機会をいただき、本当にありがとうございます。

大学生活を振り返って

棟方亜矢子（旧姓町屋）

（教育学部国際理解教育課程卒業）

高校卒業後、私は、教員への道と英語の習得を志し、函館校の国際理解教育課程に進学しました。学部の新編により、現在この課程は無くなってしまうましたが、四年間で学んだことや得たものは数多く、似た志を持って集まった友人たちは英語に対するモチベーションやスキルが高く、多くの刺激を受けました。

大学時代は余暇を利用して、英検やTOEIC、海外留学や海外旅行で語学を身に付けるなど自己研鑽に努めました。また、飲食店や家庭教師などのアルバイトに勤しんだり、外国人留学生のチューター（学習のサポーター）を担当したりしたこともありました。仕事に育児に追われ、自分の時間がほとんどない今、様々なことにチャレンジができた当時の

環境は本当に恵まれたものであったと改めて感じています。

教員への道を志していましたが、県外で学生生活を送る中で、地元である青森県の魅力を改めて感じ、地元のために働きたいという志へ変わったため、民間企業への就職へシフトしました。当時、函館校は民間企業への就職の実績が少なく、就職は不利であると思われていましたが、キャリアアドバイザーの講師をさがっていた故・岩船先生が熱心に企業を回り、間口を広げてくださいました。また、札幌で開催された就活セミナーへの大型バスの手配や、論文の添削や面接対策などの熱心なサポートのおかげで青森の金融機関に

就職することができ、八年間勤めました。その後、さらに幅広く地域に貢献できる職に就きたいという思いから市役所へ転職し、現在は、入札・契約業務を担当しています。

友人たちとの出会いには私の宝物であり、今でもメールや年賀状などで連絡を取り合っています。このコロナ禍で不安で暗くなりがちな時も、それぞれ居場所活躍している友人たちから励まされることが多く、そんな友人たちの活躍を心から嬉しく思うとともに、私自身も育児に仕事に邁進していきたいと思っています。

日本語教師

清田 花織

(教育学部国際理解教育課程卒業)

私は今、韓国で日本語教師として働いています。私はなぜか子供の頃から海外に住んでみたいと思っ
て、海外の文化や言語を学べる北
海道教育大学函館校の国際理解教育課
程を選びました。全国各地から集
まってきた友人との出会いも、とても
いい思い出です。函館という街自
体もとても魅力的で、今でも函館の
美しい街並みをよく思い出します。
在学中に交換留学で八カ月カナダ
に留学し、現地で日本語を勉強して

いる学生に日本語を教えたことが、日本語教師を目指すきっかけになりました。大学卒業後は一度一般企業に就職しましたが、仕事をしながら資格取得をし、二年後に韓国の日本語学校に就職しました。

生から六十代くらい幅広いは、中学
私から勤務する語学学校では、中学
方々が勉強しています。常々思うの
は、私は日本語を教える立場ですが
逆に生徒たちから学ぶことが多いと
いう点です。常に何かを学ぼうとす
る姿勢や、その人のそれまでの人生
や生き方などに触れる機会がある度
に、私も教師としていつまでも学び
続ける姿勢を失ってはいけないのだ
と感じます。

最近の日韓関係を見ていると驚かれるかもしれません。「日本が好き」「日本旅行にまた行きたい」「日本人がほんとに親切だった」という韓国の関係が雪解けし、よりよい未来のために手と手を取り合うことができれば：と願う日々です。

北の大地で出会った仲間の温もり

吉田 紘子 (旧姓黒坂)

（教育学部国際理解教育課程卒業）

私は大学生生活を、初めての北海道で過ごしました。雪の多い北陸出身の私ですら、北海道の肌を刺すような寒さには驚き、部屋探しに行ったその日から、ここに四年間住むのは無理：と出だしから心が折れそうでした。しかし、大学の仲間はみんな心がとても温かく、そんな寒さも癒してくれる存在で、私の人生の中でかけがえのない四年間となりました。私が在籍していた国際理解教育課程では、留学生と交流する機会が多く、お互いの文化にふれ合ったり、様々なイベントと一緒に参加したりと交流を深めました。また、大学の仲間と一緒に留学生と飲みに行ったり、夏休みには留学生の母国へ行き実家まで訪ねたりと、グローバルで貴重な経験が出来ました。

現在、大学の仲間の多くは仕事をしながら育児に奮闘しているようです。私も三児の母になり、今は育児中ですが、IT企業の事務職として来年復帰する予定です。育児優先でなかなか自分の時間をつくるのが難しいライフステージにいますが、いつかみんなでお酒を飲みながら、大学時代の思い出を語り合える日を楽しみにしています。

仲間とのつながり

石崎 寿和

（教育学部情報社会教育課程・社会文化情報コース卒業）

北海道教育大学函館校を卒業し、早十四年が経ちました。現在は、附属函館小学校で勤務しながら、教職大学院生として再度函館校に通い研鑽を積んでいます。

ふと大学時代を振り返ると、十四年前がついこの前のような気がします。当時は、講義とアルバイトに明け暮れる日々の中でも、仲間と朝まで飲み明かし将来のことを熱く語り合っただけで、一番の思い出です。大学では、講義や教育実習等多くのことを経験できたおかげで、教師になりたい！という夢を実現しようとして、何より本音を語れる仲間に出会えたことが私にとって大きな財産です。今では切磋琢磨できる良き仲間であり、良きライバルとして、自分の成長には欠かすことのできない存在となっております。当時の仲間たちは現在、学校、一般企業、警察や消防、市役所等に勤めたり育児に励んだり、様々なステージで世界や日本のため日々奮闘しています。人生百年時代を迎え、「Well-being（ウェルビーイング）」の実現に向けて私自身やりたいこと・叶えたい夢が数多くあります。これからの一教師として、一人の人間として、今まで出会った仲間、そしてこれから出会う仲間とともに学び続け、夢を追いかけてい

きたいと思っております。今回は、同期のメッセージを取りまとめる担当として、たくさんの方の仲間と連絡を取ることができたと同時に、仲間の現在の活躍を改めて知ることができ、多くの刺激をもらうことができました。このような機会をくださったことに心より感謝申し上げます。

平成二十一年卒

教育学部情報社会教育課程
社会文化情報コース

新聞記者としての第一歩

大谷 健人

私は苫小牧高専から道教大函館校への編入学を経て、卒業後は帯広市の十勝毎日新聞社に入社し、現在は社会部という部署で、新聞記者として事件や事故、火災、裁判などの担当をしています。二〇一六年四月から十八年三月までの二年間は函館新聞社に出向し、大学時代を過ごした地でスポーツや北斗市政などを担当しました。

私は教員ではありませんが、取材や新聞社が取り組むNIE関連の活動で学校を訪れることも多く、夕陽会十勝支部巴湾会の先輩にお世話になる機会もたくさんあるなど、同窓のつながりの深さを感じています。また、大学生時代を桐花寮で過ごしたこともあり、同級生や先輩、後輩、留学生などと、性別や年齢、国籍を越えた深いつながりを作ることができました。よく新聞記者にとつて重要なこととして「アンテナを張る」ということが挙げられます。これは、自分の担当分野や得意分野に関わらず、どんな小さな話題にも問題意識や当事者意識をもち、敏感になるということです。今にして思うと新聞記者としての第一歩は多種多様な考えをもつ仲間と過ごした大学時代にあったのだと気付かされました。地域密着を掲げる十勝毎日新聞には、函館から離れた十勝の地で活躍

する同窓生や、函館校と管内自治体が連携して取り組む教育事業などもよく掲載されています。これからの紙面を通じて母校や同窓の仲間を紹介していきたいと思っています。

変わったけれど変わらない仲間

野田紗緒里

私は今、東京のエイベックスという会社で、エンターテインメントに関する仕事をしています。

仕事では、全国各地へ出張することがあるのですが、大学の同期が住んでいる所へ出張することになった時には、いつも連絡を取っています。友人達も、仕事や家庭の事などで忙しいのですが、それでも時間を作って会ってくれる事が多く、嬉しく思っています。友人達とは、会うたびにお互いの環境がどんどん変わっていき、会うと大学時代の思い出話をしたり、これから先の人生について語り合ったりします。

仲間達との再会の中で特に印象的なのが、ある一枚の写真です。私は大学時代に、四人で関東に行き、記念写真を撮りました。数年後に、その四人で再会したのですが、その際に、旅行先で撮った写真と同じ並び、同じポーズで、写真を撮ったのです。その写真を見ると、変わったけれど、変わらないなあ」と、不思議な気持ちになるのです。東京で、毎日忙しく働く私にとっては、大切な一枚になりました。

私は大学で素敵な仲間達と出会うことができたことを、幸せに思っています。これからは、根は変わらない友人達の、どこがどう変わっていくのか、陰ながら応援しつつ、付き合っていきたいと思っています。

さて、私は今エイベックスで、ファンクラブの企画担当として働いています。ご自身やご家族で、気になる、応援したいアーティストがいらつしやる場合は、是非ファンクラブにいらついても興味を、是非頂けると嬉しです。みなさんも、誰かのファン

クラブに入会して、変わっていくところ、変わらずにいるところを応援しませんか。

同期の絆もとこしえに

上田知沙都

「拓北の熱き想いに 集い来し若者たちよ」初めて夕陽会に参加し、先輩達の合唱を耳にした時、私の頭の中に浮かんでいたのは、全国各地から函館に集まり、多くの時間を共にした、社会文化情報コース（以下社文情）の同期の顔でした。

私は地元が北斗市なので、実家から大学に通っていました。それまで、あまり他の地域の人達との関わりがなかった私は、初めて耳にする方言に驚いたり、彼らの故郷の話や夢を膨らませたりしていました。社文情での学びは多岐に渡るのですが、私達は苦手な分野は得意な人に教えてもらい、助け合いながら学習を進めました。また、教員養成過程ではなかったため、教育学等の講義では参加するが不安でしたが、社文情の仲間がいつも近くにいるため、心強く思えました。

楽しい日々はあっという間に過ぎ、卒業の日を迎えました。卒業式の夜には、社文情のみんなが集まり、これまでの大学生活を振り返ったり、これから先のことを、目をキラキラさせて語り合ったりしました。今でも忘れられないのが、その集まりの後、同じ方向の仲間達と歩いていて、「じゃあ、私の家はこちだから」と別れていく友人達一人一人を、みんなで見送る姿が見えなくなるまで見送ったことです。ああ、偶然同じ社文情の仲間として出会い、一緒に過ごしてきた私達だけで、今この瞬間から、別の道に進んでいくんだ！そう感じたのを覚えています。

その後も、同期達とは連絡を取り合ったり、会ったりすることがあります。数年前には、連絡の分かる人達には手分けして連絡をして、「社文

情三十路会」を開催しました。次は四十路会の開催を目指しています。今私は、教員となりました。夕陽会への参加も増え、最初は口ずさむのが精一杯だった夕陽讃歌も、今では大きな声で歌えるようになりました。これからは、夕陽讃歌を歌うたびに、社文情のみんなの楽しかった日々を思い出し、一人一人の現在の活躍に思いを馳せたりしていくのだと思います。

教育実習の経験を生かして

池野 桃子（旧姓 佐藤）

今の自分に繋がる大学時代の思い出は、教育実習です。二週間という短い期間でしたが、母校である高校に実習生として行かせてもらったことが、すごく良い経験となりました。自分が関わるクラスの生徒の名前を一人一人覚えて、少しでも親しみをもちてもらえるよう意識しながら接したり、決められた時間の中で生徒にとって分かりやすい授業を行うために事前準備をしたり、すごく内容の濃い二週間でした。今の仕事をしている中でも、教育実習中に意識したことと同じことを意識する時があります。

現在私は、病院内でシステムエンジニアとして働いており、医師や看護師、病院職員に少しでも自社が印象を持ってもらえるよう意識しながら接したり、システムの説明をする時に、どういう説明をしたら分かりやすいか模索したりすることがあります。

元々、人に何かを説明したり、教えたことが得意ではありませんが、教育実習を経験したからこそ、その時の記憶を思い出しながら仕事に取り組みめています。

教師という道には進みませんでした。が、大学生活の中で、社会人になっても良かった経験ができて、とても良かったです。

最近仕事と育児に追われる毎日、頻繁に誰かと会ったり連絡を

取ったりする時間がなかなかありません。しかし、大学時代の友人と久しぶりに会えた時には、一瞬で昔に帰ったような感覚を味わうことができて、そういう友人との楽しい時間も、今の生活の活力になっています。私は今、生まれ育った函館の街の力になりたいという思いから、地元企業であるエスイーシーという会社で働き、市役所や病院、民間企業に様々なシステムを導入しています。今後も皆様の生活を支えられるよう尽力していきますので、エスイーシーをよろしく願います！

培った力を生かして

葛西安耶香（旧姓 進藤）

私は在学中、社会文化情報コースの社会福祉分野に所属し、社会福祉の基礎や専門的な知識を学んでいました。実際に地域の高齢者施設や児童養護施設の現場実習も経験しました。その実習で、デイサービスの利用者の方との関わりや、児童養護施設で暮らす子どもたちとの接し方を通して、幅広い世代の方とのコミュニケーションの取り方を学びました。

大学卒業後は、函館市内の総合病院に就職し、外来受付の窓口で事務員として働きました。病院には、子どもから高齢者まで幅広い世代の患者が来ます。患者だけではなく、医師、看護師、その他の医療スタッフなど、業務で多くの人と関わります。患者一人一人に合わせた対応の仕方

や医師、看護師等と話す時の対応を考えるとき、大学時代の現場実習で身に付けたコミュニケーション能力を生かすことができて感じています。

また、私は卒業論文で「函館市の子育て支援の現状と課題」について調査、研究しました。私には、三歳の娘がいますが、地元で出産し、子育てしていく中で、函館市が行っている子育て支援の制度やサポートについて、予備知識があったことは、とても役に立ちました。その中でも、

「子育てサロン」というサポートは多く利用し、とても助けられました。現在私は、函館市を離れ、青森県八戸市で暮らしています。地元を離れ、全く違う文化や慣習に戸惑うこともありますが、身に付けたコミュニケーション能力を生かし、地域に上手く溶け込むことができています。

卒業後の自分

山之内宣史

先ず初めに、新型コロナウイルスの大流行に際し、その第一線でウィルスの脅威に立ち向かい最善を尽くしていらつしやるすべての皆様に敬意を表します。一日も早くウィルスの脅威が終息し、不自由のない平穏な生活が訪れることを祈っています。

現在私は、故郷の新潟県魚沼市にある「奥只見観光株式会社」で観光施設を管理運営する仕事に就いています。夏季は「奥只見湖遊覧船」の船頭、冬季は「奥只見丸スキー場」でリフトの運行やゲレンデ整備などの仕事に従事しています。大学を卒業してから六年間ほどは新潟県の臨時教員として勤務していた時期もありましたが、ご縁があり今の会社で勤務しています。宿泊を伴う勤務も

お預かりする仕事で気が抜けませんが、やりがいがある仕事です。お近くへお越しの際はぜひお立ち寄りください。私がお案内いたします。

大学時代のことを思い返すと、「もつと勉強すればよかった」という気持ちには尽きません。試験前にすべきことは、先生方へご挨拶する「研究室巡り」ではなく、図書館等へ通

う「文献巡り」だったのかもしれない。一方で、同じコースの仲間、スキー部のメンバー、まちワーク研究室のメンバーをはじめ、いろいろな活動を通じて出会い意見を交わすことのできた多くの皆さんとは卒業後もSNSなどの力を借りながらやりとりをしています。人生で一番内容のある時間を過ごせたのかな……と今でも感じています。

私が今従事している仕事の中で、「スキー修学旅行」の受け入れ、「夏休みの体験型イベント」の企画運営があります。どちらも小学生を対象とした内容です。教職に就いていたころの経験がこんなところで役立つとは思いませんでした。教材とは似つきませんが、スキーの楽しさ、船の面白さをどうやったら子どもたちやそのご家族の皆様に体感してもらええるのかを考えると日々です。考えたことを同僚とともに形にする。これはとても楽しいです。やりがいを感じ

る瞬間でもあります。これから続けていき、後輩にしっかりと引き継ぎたい業務の一つです。ここからは私の夢ですが、いつか「北海道教育大学函館校」を卒業した方と一緒に働くことです。母校から少し離れた新潟県。教職に就いていた時も、今も、母校が同じ方と勤務した経験がありません。いつかそんな日が来ればな……と考えながら、またその日が来た時にしっかりと手本が示せるように鍛錬を続けていきます。

結びになりますが、大学を卒業してから十年ほどの間に東日本大震災や北海道地震など多くの災害がありました。そのたびに、心に大きな傷を負いながらも多くの皆様のたゆまない努力と忍耐によって復興を果たしたことは言うまでもありません。

「こんな時代」だからこそ、卒業生一同が一致団結してこのコロナ禍の困難を乗り越えてまいりましょう。現役の学生諸君と卒業生の益々のご活躍・ご多幸、ご健勝、母校の栄を祈っています。



学生の就職状況と キャリアセンターの取り組み

北海道教育大学キャリアセンター長 松浦俊彦
(平成10年卒)

まずは、新型コロナウイルスへの対応が長期化するなか、日夜最前線での対応にあたっている医療機関等にお勤めの卒業生のみなさまに敬意を表します。

さて、令和二年三月に卒業した国際地域学科三期生の就職状況を紹介いたします。卒業生二八八名の進路別の割合は、グラフに示す通り、民間企業五八%、公務員一九%、教員一%、進学五%と続きます。就職先の一例を示すと、東京海上日動、三井

住友海上、日本生命、全日空、楽天、ローソン、資生堂ジャパン、日本旅行、ニトリ、マイナビ、日本郵便、NHKなどの全国展開をする企業をはじめ、東北電力、JR東日本、JR北海道、ANA新千歳空港、津軽海峡フェリー二名、北海道銀行、みちのく銀行四名、ホクレン、北海道新聞、東奥日報などの各地域の主要企業があげられます。官公庁では、厚生労働省二名、国立大学法人四名などの国家公務員系をはじめ、北海道庁六名、警視庁、道警三名、岩手県警、宮城県警などの地方公務員、仙台市、盛岡市二名、久慈市、大仙

市、函館市十五名、北斗市三名、森町三名、乙部町一名などの役所・役場に採用されています。公立学校教員としては、北海道・札幌市、青森県、秋田県、岩手県、宮城県、福島県、神奈川県、千葉県、愛媛県などで教壇に立っています。また、東北大学、北海道大学二名、筑波大学、北海道教育大学五名、宮城教育大学などの大学院に進学し、勉学に励んでいる卒業生もいます。

卒業生のうち、就職希望者（進学およびその他進路を除く）の就職率は九七・三%でした。就職率を志望別にみると、民間企業志望者が九八・八%、公務員志望者が九八・二%と好調だった一方で、教員志望者は八八・九%でした。さらに教員志望者のうち正規採用は六三・九%にとどまり、残りは臨時採用または未就職となりました。少子化にともなう学校数の減少や定年後の再任教員の増加など、若者に対する厳しい雇用環境が背景にあると思われます。

ここで、キャリアセンター函館校センターの就職支援について紹介します。まず、国際地域学科では、学

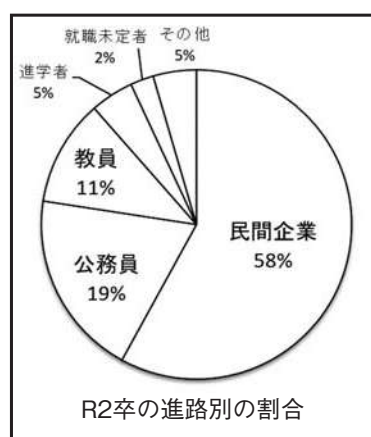
生一人一人の自己実現のため、キャリア教育に力を入れています。独自のカリキュラムとして、キャリア開発科目を十科目開講しており、三科目六単位以上修得することが卒業要件となっています。一年生では自己分析や職業研究などを通して適職を自分で見極めるための必修科目「キャリアガイダンスⅠ」を受講し、

二年生からは民間企業・官庁・教員の三コースに分かれて、それぞれの専門性に対応した「キャリアガイダンスⅡ」「キャリア開発Ⅰ・Ⅱ」を学年進行に沿って受講して、本格的な就職活動への準備を着実に進めます。授業では企業や教育委員会などの採用担当者から直接話を聞く機会もあります。授業のほかにも、各企業・官公庁の採用担当者を集めた業界研究会や合同官庁説明会、各自治体の教員採用試験説明会をはじめ、面接やSPI試験の対策講座、無料模擬試験、都市部で開催される主要合同説明会への交通費補助など学生の就職活動を絶え間なく支援する豊富なプログラムが用意されています。最近では、卒業生が各企業・官公庁の採用担当者として来校するケースが増えてきており、先輩ならではの親身なアドバイスが多くの学生たちに好評を得ています。

函館校センターには経験豊富な専

任スタッフが三名おり、授業や就職支援プログラムの実施をはじめ、専用の相談室での個別相談を行っています。エントリーシート等の添削や面接指導、内定辞退の方法など、学生一人一人の就職活動をきめ細かく支援しています。若い卒業生のみなさんは学生時代に大いにお世話になったのではないでしょうか。

おわりに、私の学生時代は就職氷河期でしたが、キャリアセンターはもちろん、大学が学生の就職を支援してくれることはほとんどなかったもので、今は正直、良い大学になったと一卒業生として喜んでおります。しかし、新型コロナウイルスの影響で、採用抑制・中止の動きが広がっており、学生の就職を取り巻く環境が厳しさを増しています。本学は学生への就職支援を一層強化していきますので、各界でご活躍の卒業生のみなさまからのご協力を賜りますようお願い申し上げます。



新型コロナウイルス感染拡大防止における取組の必要性が強く求められる中、例年開催されています各部総会・懇親会、ブロック会議等が中止または極めて小規模での開催などとなっております。本部におきましても、十一月予定の第一回本部役員会も延期することといたしました。直接人と人との思いを紡ぐ機会をもつことが厳しい状況となつています。会務の現状についてご理解いただきますようお願いいたします。

11/17 第2回令和の夕陽会を考える会を開催する。
(札幌市…online)
10/3 夕陽指導主事等会学習会に
藤川会長が出席する。
(函館市…online)



幹事長
白川川卓
(平成5年卒)

会務報告

令和2年度 夕陽会研修助成先一覧

(R3. 2. 1 現在)

- 1 七飯町立藤城小学校公開研究会
- 2 胆振夕陽会 学校経営セミナー

(研修部長 函館市立万年橋小学校 高橋 吉隆)

学生に生活応援金を給付

新型コロナウイルス感染症が収束しない中で、アルバイト収入が激減して生活に困窮している学生が多くいます。

九月に開催しました全国支部長会議においても、出席者から、厳しい生活を送っている後輩に何らかの支援をすべきであるとの意見が出されました。本部事務局としても、その対応策を検討していた折、ある方から困窮している学生をぜひ応援したいと寄付の申し出がありました。その方は、匿名とすること、年末年始の帰省に間に合うように一日も早く給付することを強く希望されてい

ました。そこで、大学と協議し、給付型奨学金を受けている学生(自宅外)を対象に、「生活応援金」として三万円を給付することにしました。対象者に連絡してもらい、十二月二十三日(二十五日の三日間で百十名程度の学生に給付することができました。

応援金を手渡した学生からは、「食費がなくて困っていたので、本当に助かります。」「これで帰省できそうです。」「など、感謝の言葉をたくさんもらいました。

ご寄付を賜った方に、改めて心よりお礼を申し上げます。新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中で、引き続き生活に困窮している学生がいます。今後、大学と協議しながら、夕陽会としての支援策も考えたいと思います。

令和の夕陽会を考える会

幹事長 白川川卓 (平成5年卒)

六名の委員によって今後の夕陽会の在り方を検討している「令和の夕陽会を考える会」では、協議の参考にするため、全国の支部にアンケート調査の協力をお願いしました。アンケートの内容は、今後の本会の「組織」「会費」「名簿」「事業」の在り方についての四点です。お忙しい中、ご協力いただきました支部長各位に、お礼を申し上げます。

アンケートを集約しますと、「組織」については、卒業生全員加入を重視して「同期が声を掛け合って集まりやすい気軽な組織」、「教員のみならず様々な職種の間窓が参加しやすい雰囲気づくり」など、温かで寛容な組織を目指したいとの意見が多かったです。そのため、役員体制の工夫や見直しも必要ではないかとの指摘もいただきました。

「会費」については、徴収方法について多くの意見をいただきました。コンビニや郵便局等で会員が直接振り込む方法に変えるべきという意見と、現状の各支部が会費を徴収する方法を継続すべきとの意見が、ほぼ同数ありました。

「名簿」では、個人情報収集や管理が難しくなっている現状を踏まえ、専門業者に依頼して作成することに賛同する意見が多かったです。

さらに、有償で希望者のみへ頒布するという意見も多く寄せられました。「事業」では、六月開催の本部懇親会は貴重な機会であることから、より多くの会員に参加してもらえよう広報活動を一層工夫するとの意見をいただきました。「組織」と同様、現役学生や多様な職種の同窓の親睦が図られる温かな事業の運営が求められていると感じているところです。

以上のアンケート結果をもとに、十一月十七日、第二回令和の夕陽会を考える会を開催いたしました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から遠隔アプリを活用しての開催となりました。各委員には、教員以外でも参加しやすい組織や事業の在り方を中心に、工夫点や改善点について協議いただきました。協議の内容とアンケート結果を整理し、第三回の考える会では、今後の夕陽会の在り方についてまとめ、役員会に報告できるようにしたいと考えております。最終的なまとめにつきましては、令和三年度の総会で報告させていただきます。あくまで予定でございます。



前納会費納入会員名簿追加分

大浦 久美子 函館 昭57 笹木 昭夫 函館 昭57
風間 和夫 函館 昭57 齊藤 貴実 函館 昭57
佐々木 寿也 函館 昭57 鈴木 純子 函館 昭57
(敬称略 令和3年2月1日現在)

夕陽会員計報

桜井 秀雄 氏 昭22 1・12・27 逝去
札幌市中央区南21の6 ホンセシール山鼻 妻 恵子氏

瀬川 とみ 氏 昭25 2・2・24 逝去
函館市美原2の53の10 長女 中島直美氏

米坂 幸助 氏 昭30 2・5・4 逝去
函館市中道1の31の16 妻 幸子氏

河上 泰子 氏 昭25 2・5・19 逝去
函館市本町18の9 長女 大上淳子氏

寺田 保 氏 昭33 2・5・23 逝去
函館市川原町17の7

手塚 滋 氏 昭32 2・8・14 逝去
札幌市手稲区新発寒6の2の1の26 妻 紀子氏

星見 定義 氏 昭31 2・8・14 逝去
札幌市清田区真栄4の5の1の1

蓬萊谷幸治 氏 昭28 2・9・8 逝去
函館市中道2の7の9 妻 瑠璃子氏

高橋 桂樹 氏 昭11 2・9・9 逝去
札幌市北区太平9の3の5の33 長男 紘一氏

福島 正弘 氏 昭39 2・10・2 逝去
北斗市向野1の6の14

川辺 哲雄 氏 昭29 2・10・2 逝去
函館市東山3の5の8 妻 清氏

間山 文雄 氏 昭41 2・10・8 逝去
函館市上野町38の5

谷野 久雄 氏 昭23 2・12・14 逝去
札幌市北区新琴似5の15の2の20

加藤 實 氏 昭28 2・12・24 逝去
函館市市場町5の22 妻 照代氏

日野 國雄 氏 昭31 2・12・29 逝去
苫小牧市澄川町1の10の14 妻 恵美子氏

菅谷 蕃 氏 昭34 2・12・9 逝去
札幌市厚別区厚別東1の1の1の27の201 妻 悦子氏

川俣 勇造 氏 昭35 2・12・10 逝去
函館市本通4の18の6 妻 美智子氏

野畑 義男 氏 昭22 2・12・15 逝去
茨城原日立市水木町2の16の6の1 大橋正典氏

寺山 秀弥 氏 昭30 2・12・24 逝去
函館市美原1の22の25 妻 歌子氏

中井 世紀 氏 昭36 2・12・25 逝去
函館市日吉町4の23の12 妻 ケイ子氏

(令和3年2月1日現在)

令和3年度 北海道教育大学夕陽会
本部総会・大懇親会・全国支部長会議のお知らせ

◆日 時 令和3年6月26日(土)
◆会 場 ホテル函館ロイヤル
(〒040-0034 函館市大森町16番9号 ☎0138-26-8181)

- ・令和3年度 全国支部長会議 13時30分～15時30分
- ・令和3年度 総 会 16時～17時
- ・令和3年度 大 懇 親 会 17時30分～20時

編集後記

◆終息の見えないコロナ禍の中、会員各位におかれましては、不安と閉塞感に苛まれておられる方もいらっしゃるのではないでしょうか。そんな中、少しでも明るい話題を提供すべく夕陽会報第二三〇号をお届け致します。

◆今号は、暗澹たる状況にあつてなお、一筋の希望の光を放つ表紙に始まり、各界で活躍する同窓の姿、そして、平成十九年、二十一年卒業の「同期の輪を広げて」と続きます。

◆長年、学校のみに勤務し続けていると馴染みがない仕事、そして、その仕事にかけける熱い思いにふれることができ、困難な状況においても、最善を尽くすという勇気と元気をいただけたこと請け合いです。

◆会員各位におかれましては一行一行かみしめながら、ご精読いただくことを期待しております。

◆今後とも、本会のモットーである「創造し行動する夕陽会」を標榜し、それにふさわしい情報提供を目指し取り組んで参ります。引き続き温かいご支援をお願い申し上げます。

(情宣部長 檜野 人範 記 昭60卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041-0806 函館市美原3丁目48番6号
北海道教育大学附属函館小学校内
夕陽会本部事務局
電話番号(0138)46-2223
夕陽会専用(0138)34-5520
FAX番号(0138)47-7376
e-mail: sekiyoukai34520@gmail.com

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭)氏(昭4卒)